

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173600891		
法人名	株式会社無限倶楽部		
事業所名	グループホーム幸福の里あすか		
所在地	苫小牧市字錦岡647番地14		
自己評価作成日	令和4年3月8日	評価結果市町村受理日	令和4年7月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kanji=true&jiyosyoCd=0173600891-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ソーシャルリサーチ
所在地	北海道札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2
訪問調査日	令和4年6月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様一人ひとりが、安心して楽しみながら生活ができる環境を作り、支援しています。若い職員が増えてきたので、事業所の活性化に繋げていきたいと思ひます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム幸福の里あすかは2007年12月に苫小牧市西部地区に開設しました。事業所はJR錦岡駅から徒歩圏内の国道に面した2階建ての建物で、前面に太平洋、後方には樽前山と雄大な景色に囲まれています。リビング・食堂をはじめ各居室も広く、採光があり、安心・安全・衛生に配慮された環境となっています。事業所の優れた点として、管理者が率先して利用者の思いや意向聴く姿勢が挙げられます。その姿勢を職員も共有し、アセスメントや記録、ケアプランに活かしています。また家族の要望でテレビ電話導入や、行政の実地指導や外部評価で課題となった項目を改善策とともに家族に迅速に周知しています。今年入職の職員の提案や意見を新しい視点と捉えて行動するなど、「傾聴」「気づき」を大切にするケアの実践は、事業所全体に波及しています。「その人らしさを大切にします。」「安心・安全な生活環境にします。」「思いやりを持って接します。」「出来ることの喜びを分かち合います。」「知識の向上に努めます。」「この5つの理念を基に、全職員で利用者の「幸福の里あすか」の暮らしを支えています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどつかんでいない		↓該当するものに○印	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビングフロア入口に掲示し、いつでも確認しながら実践に繋げられるように努めている。	入居時に理念を利用者・家族へ説明し、リビングにも掲示しています。職員は毎月のカンファレンス等で理念の理解を深めています。管理者は理念に掲げる本人重視の視点がケアに反映するよう、職員教育に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度もコロナ禍だったため交流する機会を持っていない。	新型コロナウイルス感染防止のため、地域交流の機会は以前より減っています。認知症キッズサポーター養成講座で小学生への認知症啓発活動は継続しており、今年度は夏祭りなどの地域交流を計画しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所内にいる認知症サポーターのキャラバンメイトが近くの小学校へ出向き、認知症キッズサポーター養成講座を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	通常開催されていた時には意見交換等も行い、向上に活かせるように努めているが、今年度はコロナ禍が続いている為、資料を配布するだけに留まっている。	コロナ禍での運営推進会議は2か月ごとに職員のみで実施しています。行政や町内会、家族へ議事録を配布し、意見を聴取しています。議事録には運営や行事の予定・報告のほか、事故発生時には自治体へ提出した報告書を添付して事業の透明化を図っています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	各種問い合わせの際や書類の提出時に意見を聞かせて頂きながら関係作りに努めている。	各報告やコロナワクチン接種など行政と都度の情報共有をはじめ、認知症サポーターとして市の「ふくし大作戦」事業に協力しています。令和3年10月の実地指導後は、人員配置や記録方法の課題解決に努めています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一度身体拘束適正化委員会を開催し、日々の支援に対し拘束がないか話し合い、資料を用いて勉強会を開き知識の向上に努めている。	身体拘束適正化委員会を3か月に一度開催し、関連する研修やケアの疑問点について議論を重ねています。新人職員には各フロア指導係がケアの実践や利用者の人権擁護を伝えているほか、ケア習得状況を視覚化できる確認ツールを活用しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に一度のケアカンファレンスの中でも話し合い、注意を促し、定期的に資料を配布し支援の中で防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修機会がなかった為、内部研修の年間予定に組み込み、学習する機会を持ちたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に行う面談や、入居時に契約書についての説明を行い、改定時には書面をもって説明し同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話連絡をした際などにご家族の話も聞かせて頂き、意見を反映できるように努めている。	毎月発行の事業所便りや運営推進会議議事録送付時の他、諸連絡の際に家族から意見を聴取しています。面会制限中の昨年度は、家族意見を反映し、テレビ電話を導入しました。実施困難な意見には理由を伝え理解を得るようにしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中で意見が出た時はその都度話を聞き、カンファレンス等でも話し合い反映できるように努めている。	職員が意見や提案を述べる機会は日常的にあり、一つひとつの提案が実現可能か職員で議論しています。新人職員の増加により多様な視点から検討し、事故防止策、記録のデジタル化など事業所の機動力向上に繋げています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々のスキルアップの為や、資格取得の為の支援整備や日々の業務について分担し任せることで、やりがいを持てるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修が少ない為、内部研修を開き知識の向上に努め、技術に関しても個々の能力に合わせて伝えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	コロナ禍の為、なかなか外部の方達との交流は持っていないが、落ち着いた時には姉妹施設との交流を再開していきたい。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前情報だけではなく、本人やご家族からも話を聞かせて頂き、スタッフとも共有し安心して頂けるよう関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時にも不安や要望等の話を聞かせて頂いているが、サービス開始後も情報交換を行い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談で聞かせて頂いた情報やフェースシートを基に、入居時ケアプランを作成し支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にしていく中で、本人の出来る事を見極めながら一緒にいき、関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の手紙や電話等で近況を伝え、出来る範囲での協力をお願いし、一緒に本人を支えられるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問理容などわずかながら出入りしている方々との交流はあるが、コロナ禍で依然として支援が難しい状態にあります。	面会制限中も、2か月に1度の訪問理美容は継続し、利用者の気分転換を図っています。市内の感染者数減少を受け、家族との面会は人数と時間の制限内で再開し、他の関係継続支援への拡大も検討しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの関係性を見ながら間に入り、お互いが助け合いながら生活ができるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談等頂いた時にはその都度対応するよう努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での本人の言葉や行動を、記録とケアカンファレンスの中で話し合い、利用者の思いの把握に努めている。	思いや意向の確認が困難な利用者には表情や目線など細かな仕草を記録に取り、アセスメントを重ねるなど思いの把握に務めています。ケア実践の成功例はカンファレンスで職員共有し、サービスの質向上に繋がっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活については家族からも話をお聞きし、情報はスタッフ間で共有し、フェースシートはいつでも見られるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の様子等は暮らしのアセスメントに記録し、申し送りなどで情報共有し把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各自が行うモニタリングと、担当者が行った評価について話し合い、プランの見直しや更新を行っている。家族にも意見を募り、出た意見をプランに反映するよう努めている。	課題整理総括表、課題分析概要、評価表を活用し、職員全員がモニタリングの上、介護計画を作成しています。計画は原則3カ月ごと、又は利用者の状況に応じて随時見直しをしています。事業所では計画と支援記録の連動性に課題を感じ、改善を検討しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の暮らしのアセスメントシートだけではなく、業務日誌や介護経過記録を活用し、共有して見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会等、自粛中ではあるが状況や状態を見ながらその都度必要な支援を行い対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度も自粛期間であった為、なかなか活用できていないが、訪問美容は継続している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月1回、定期往診と在総診で診て頂き、訪問看護にも週に1度来て頂き支援の体制を作っている。	毎月の協力医往診と週1回の訪問看護の医療体制をとり、精神科や皮膚科などかかりつけ医の受診は主に管理者が同行し、利用者の状況を医療機関と共有しています。家族には受診結果や服薬の情報提供を行っています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度の定期訪問と24時間の連絡体制で情報の提供と共有を図り、何かあれば都度連絡して助言、指示を受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院や家族と相談し、情報交換をして備えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明し同意を頂いているが、重度化し終末期に入る時にも再度家族に説明して同意を得ている。かかりつけ医や訪問看護とも話し合いながら取り組んでいる。	重度化の指針、看取りの指針と同意書、急変時の確認書を準備し、入居時をはじめ該当状態になった際に家族へ繰返し説明しています。看取り経験を、都度指針の見直しに反映しており、各指針は自己決定・家族支援に言及した内容となっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	家族に急変時の確認を書面で頂いている。応急手当等は訪看に連絡し指示を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍で消防の立ち合いはないが、年2回の避難訓練を実施し、町内会にも協力をお願いしている。	火災想定避難訓練は令和3年9月と、令和4年3月は消防署立会いの下で、消防設備業者の点検も同時に実施しています。訓練後には反省点や改善策を話し合い記録しています。自然災害への訓練・対策が喫緊の課題です。	事業所は津波ハザードマップで3～5mの浸水地区にあります。また榊前山の噴火も懸念されます。胆振東部地震時に山側への避難路が断たれた経験から、災害に応じた避難対策・訓練と自治体の協力確認など、事業継続化計画の作成と併せて早急な対策が求められます。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりのことを理解し、その方に合わせた言葉掛けを行い、誇りやプライバシーを損なうことがないように努めている。	認知症理解と接遇マナーについての内部研修を実施しているほか、身体拘束適正化委員会内でも利用者の人権擁護を学んでいます。プライバシーでは羞恥心への配慮を重視した声掛けや支援に取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いを話せるような声掛けを工夫し、環境や関係を作り自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	業務の手を止め一人ひとりに合わせて寄り添うように努めているが、待たせてしまうこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を活用し、腕時計や指輪などの装飾品でおしゃれをしたり、服装も自己決定できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に数回、配食サービスのお楽しみメニューを活用したり、誕生日や行事には好みのものを提供している。準備や片付けも一緒に協力している。	献立と食材は配食業者に委託し、バランスの取れた食事を提供しています。行事の際は職員の手作り食、デリバリーの活用など様々な希望に対応しています。配膳や下膳などが得意な利用者が活躍する場も設けています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形態や量は個々に合わせて提供している。食事量や水分量は記録し、確認できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合わせ、方法を変えながら口腔ケアを行い、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人の仕草や間隔を見てパターンを把握し、トイレへ誘導しトイレでの排泄を促している。	排泄は一人ひとりの記録を取り、仕草やパターンなどを把握して自立した排泄が継続できるように支援しています。衛生用品は容量やサイズが適切かを都度検討し、サンプルを取り寄せて性能・効果を確認しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を確保し、乳製品を飲用して自然排便を促しながら下剤も併用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に浴った支援をしている	午前中からでも入れるように対応している。入らない日が続く場合は、清拭なども行っている。	湯船は毎日お湯を張り、ゆったりと寛げるように1日に2、3人の入浴支援をしているほか、予定者以外の入浴希望にも応えています。体調により入浴困難となった利用者には毎朝全身清拭で対応し衛生保持に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンや状態を見て、日中でも無理せず休んで頂けるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬情を入れいつでも確認できるようにしている。薬の副作用等について理解し、状態観察に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活していく中で個々の力を活かしながら役割を持って頂けるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、基本的には外出支援はできていない。	コロナ禍では感染症予防のためのマスク着用が困難な利用者がほとんどのため、屋内外施設への外出は自粛していました。今年度は、事業所敷地内で夏祭りの開催や近郊ドライブでの外出を検討しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身で管理が出来る方に対してはお小遣い程度の現金を所持して頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家族などどちらか一方でも要望があった時は通信支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	飾り付けなどは季節に合ったものを飾り、安心して過ごせるように光や音、温度や湿度にも注意し心掛けている。	南向きのリビングと食堂は併せて40畳以上の広さがあり、2か所にあるソファは利用者の寛ぎスペースとなっています。職員と利用者の手作りによる季節の装飾品や行事写真を掲示し、温湿度・換気・清掃等も十分に配慮した快適で安らぎのある空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いリビングなのでソファを1か所に固めず、少し離れた所にも置いて個々が好きな場所で過ごせるような環境作りをしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら使い慣れた物をお持ちいただき、安心して過ごせるよう工夫をしている。	日常の愛用品や家具の持ち込みは部屋の制限内で可能とパンフレットに記載しています。居室には趣味で作成したセーターやちぎり絵、お気に入りのぬいぐるみや日本人形を置いています。事業所は個性の表現を受け止めて安心安全な暮らしを支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態を理解した上で見守りを行い、安心できるような環境作りに努めている。		